令和５年度学校評価シート（自己評価）

令和６年５月２７日

学校法人朝霞学園　菩提樹の森幼稚園

１、園の教育目標

仏教の大慈大悲の教えを基本に、学校教育法及び幼稚園教育要領に則り、幼児の心身の健全な発達の助長をめざす。
〇人をたいせつにする子
生命（いのち）を尊重し、正しきを見て絶えず進む子どもを育てる。
〇すすんで行動する子
ものごとを自主的、創造的に考えていく子どもを育てる。
〇健康で朗らかな子
心身ともに健康で、何事も最後までやり遂げる子どもを育てる。

２、具体的な目標や計画

令和５年度は評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することにより、園長をはじめ教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の振り返りや改善、施設環境の改善、地域の中の幼稚園としていかなる存在かを客観的に観て、主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。
・教育課程指導分野…幼稚園の教育の根幹となるため、評価項目に選定。建学の精神や教育目標に基づいた幼稚園の運営状況
・教育課程・指導…重要項目であり、経年変化を図るため毎年の評価項目に選定。
・教育環境整備分野…子どもが遊びを通して学ぶ空間としての環境は重要であるため、評価項目に選定。
・保健管理…法定の学校保健計画の作成・実施の状況の確認と学校環境衛生の管理状況確認
・組織運営…各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、また、教職員への情報の取扱方針の周知の状況

３、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果（※）	結果の理由
家教育課程指導分野 見学の精神や仏教教育保育の理念のもと、園児一人ひとりが何事においても意欲的に取組めるように援助し、自律的な精神を養う。人的環境・物的環境を通しての教育保育を実践する	A	・先生は、園児一人ひとりを大事に守り育てていく仏教教育保育を実践し、園児のあるがままの姿 を受け止め、和顔愛護をもって関わっている。 ・先生は、園児同士が互いに個性や多様性を認め合いともに育つことができるよう、働きかけている。 ・先生は、園児が主体的に、喜びをもって遊び、充実感や達成感を味わえるように援助している ・先生は朝の活動の中で、唱歌をとおして挨拶 、合掌礼拝し、お祈りから一日を始めている。共に祈る中からも、仏教保育教育の共通理解につながる願いが込められている。 ・毎月の礼拝や三仏忌などの行事を通して、本堂や礼拝施設で合掌し祈りを捧げ、法話を聞いたり考えたりすることで宗教情操教育が育まれることを願う。また、何かに見守られていることを感じ、仏教保育につ

		いて理解を 深めてもらう機会を継続して設けている 。 ・仏教保育を学ぶ研修会に参加し、仏教保育について学ぶ機会に触れ、日頃の保育活動に取り入れ、子どもたちに言葉と態度と活動を通して教えている。
教育課程・指導分野 幼稚園教育要領五領域を基本に、主体的に取組む姿勢を培う援助。 また、園児が自主的・創造的に活動し、何事においても意欲的に取り組めるように援助する。 園児が集団の中で、互いの違いに気づき、理解し合えるように援助する。	A	・令和５年度年間指導計画、学年毎の月案、クラス毎の週案、個人記録、日案について、園児一人ひとりの発達段階や育ちなどを考察、省察している。 先生は、園児の育ちが個々から集団へと繋がるように、クラス全体で様々な活動に意欲的に取り組めるように援助している。また、園生活だけでなく、保護者と連携し家庭でも意欲や主体性に繋がるように、口頭や電話、手紙などでコミュニケーションを図り、共有することで子どもの育ちに寄与している。また日々、幼稚園での取組やねらいなどを保護者と共有するために、降園時や懇談会において園児の姿や活動、それらに付随した願いをできるだけ伝え、また保護者の思いにも寄り添い関わっている。また、さらに保護者の考えや願いを踏まえ、より具体的に園児が集団生活をおくる中で育まれる力や成長、変化などを手紙や直接お話しすることで共有している。 それぞれの在籍している園児の個性を受け止め、互いの違いに気付き、理解し合い、友だちや先生と共にいる喜びや安心感をもって過ごせるようにしている。先生は年齢や発達に合った教材を熟考して準備し、園児が自主的に物的環境に関われるようにしている。また、先生は人的環境として、園児が興味関心を深め主体的に活動を展開していけるように援助を行っている。日々、園児一人ひとりの姿や育ちについて教職員間で話し合い、成長が積み上がっていくように努めている。また、各学年の活動について、ねらいや発達、経験などを省察し、教員の会議で共有して連携している。年度末には個人の育ちや願いなどを引き継ぎ共有している。意識的に教職員間で話し合い考えあう機会を持ち、話し合うことが自然な雰囲気で行えるようにすることを大切にしている。そのことが結果的に子どもの育ちや成長に繋がると考えている。また、視覚的にもイメージを共有できるようにスマートフォンなどを使用し動画や写真を使ってドキュメンテーションとして伝えている。

教育環境整備分野 設備整備、遊具・教材の充実、教員の教育・研究環境の整備 設備整備の安全、維持管理、充実のための点検、整備、拡充を行う 子どもの育ちに適した遊具、教材の充実を行う 教員の教育、研究のための環境の充実を行う	B	園児が、植物の生長を身近に感じたり、栽培した野菜を収穫して食したりできるように、令和５年度も年長では植物を栽培している。ナス、ミニトマト、キュウリなど。自然豊かな園庭の環境維持の為、全教職員で水やり、追肥、草抜き、間引きを行うと共に教育的配慮を持ちつつ植物の育ちも考慮している。高橋造園さんと相談し、樹木の剪定・伐採等をし、環境整備に努めている。園児が、より自然に興味関心を持ち生き物の飼育を通して命の尊さが感じられるように、年長の学年では日本固有のクサガメを飼育している。また、幼稚園園舎入口ではメダカ、カタツムリ、ヌマチチブ・カブトムシ（園児から提供）を飼育し全ての園児が生き物に興味が持てるよう配慮している。ホール、職員室、保育室のワックス塗布が行っている（年３回）。嫌気性細菌の増殖を防ぐ為、教職員で砂場の掘り起こしを行っている（随時・水遊び時は都度）。毎日、保育開始前には、園庭・遊具の安全確認を行っている。全教職員で大型遊具、小型遊具、砂遊び道具の環境の保全に努めている。園舎内外の環境保守点検を行っている。消防点検（2回）、ガス点検、防ダニ防鼠作業・火災報知器の点検を行っている。自然環境が豊かな園庭であるため、反面イラガ、ムカデ、スズメバチなどの危険な虫が見ることもある。発見した際は、園児の安全に配慮し、必要に応じた対応をしている。
保健管理 法定の学校保健計画の作成・実施の状況の確認と学校環境衛生の管理状況確認	A	園児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 園医、園歯科医、薬剤師の先生方と相談し学校保健計画を作成し実施する。 健康に関する理解を通して、自主的に心身の健康づくりを行う資質・能力を養う。また心身の発達の段階に応じた個別・集団の指導により、基本的生活習慣を通して園児の健康管理を行う。幼稚園の環境について関心が持てるよう、日頃から保護者に健康管理の大切さを伝え教職員同士も共有することに勤める。 先生同士も学校保健計画について共有し、保健管理と保健教育の調和を図り、幼児教育全体を通じて計画的に実施に当たる。 望ましい幼稚園環境をつくり、園児がより健康で快適な幼稚園生活が送れるよう配慮する。 園児の身体や精神に関わること（アレルギー、既往歴、痙攣、発達障害、肢体不自由等）について継続して教職員間で共有している。また、必要に応じて園医

や心理士にも相談し、対応・援助について適宜話し合っている。
園医による健康診断、歯科検診を行っている。また、教員による身体測定を毎月行っている。
毎朝園庭を見回り、危険な場所やものがないかを確認している。また、保育室や遊具など園内で不具合が見つかった場合も、修繕・撤去するなどして安全を確保している。
夏の台風シーズンが来る前には危険なものは室内に移動するなどの対策をとっている。
年に７回の避難訓練（火災・地震）を行っている。また、避難訓練をきっかけに家庭でも防災意識を高めてもらえるように保護者に話をしている。
保育中の園児の体調不良・怪我に対し、適切に対応できるよう夏期に救命救急講習を行っている。
教職員、保護者は園内では不織布マスクを着用し、新型コロナウイルス感染予防に努めている。
教職員は毎朝検温を行い、園児は検温と体調を入力する「健康観察チェック」をアプリ上で行い健康管理・感染対策を行っている。
教師は登園時に園児の視診を行い、心身の状態の把握に努め、保護者とも連携を図っている。また、園児の体調の変化に気を配り、変化があれば検温するなどしてすぐに保護者に連絡している。また、早退・降園後の園児の体調について保護者に連絡をとり確認している。
園児が使用した遊具・玩具は必要に応じてドクタークリーン消毒剤で消毒を行っている。
園児自身が健康に過ごせるように意識を持ち、手洗い・アルコール消毒を行えるようにしている。・食事の際には、できるだけ会話を控え感染予防に努めている。
文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」や「感染拡大防止のための効果的な換気について【新型コロナウイルス感染症対策分科会】」に準じて、保育室やホールの換気を行い、常時時換気扇、空気清浄機で感染症対策を行っている。保護者参加行事の際に、椅子を置く間隔を1m以上開けている。個人懇談会、入園面接などでは、飛沫防止のために一定の距離を開けて行っている。
学級閉鎖や園児の自宅待機などは、文部科学省の基準に準じて協議し、現状に合わせて対応している。

		無断欠席者に対しては、園から連絡を取り確認の徹底を行っている。 夏季休園中に各自課題を持っている研修会に参加し、自己研鑽に努めている。研究会や研修会に参加し、職員の資質向上に 役立てている。
組織運営 各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、また、教職員への情報の取扱方針の周知の状況	B	指導要録の電子保存に移行する。 月１回以上の職員会議でその都度教育目標の周知を図った。具体的に教育目標を運営に生かしていく方法についてさらに検討する。また、組織体制の整備園務を全教職員で共有し適切な運営とその責任体制を整備する。 幼稚園の実態に即した園務組織を整備し運営を行い、各学期の最終日に中間報告を実施し、全教員間で内容を共有する。役割と分掌についてより園の実態に即した整備について検討する。 今後ペーパーレス化をさらに進め、日誌等をアプリ入力に変更できるよう研究する

４、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結　果	理　　由
B	令和５年度は、概ね全ての項目で評価項目を実施することができた。 新型コロナウイルス感染症が５類に移行し、コロナ禍前の状況に戻せるものは戻しつつ、新しい取り組みも改めて見直す必要があると思います。そんなコロナ禍後の過渡期でありますが、教職員一人ひとりが評価項目に対し積極的に取り組む姿が見られた。取り組むべき課題について全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し取り組み状況を話し合うことで園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。園児の手洗い・うがい体調管理は継続して行われているが、ほかの疾病の流行も見られるが、学級閉鎖などの措置が必要なインフルを含む流行性疾病予防に努めることができた。特別な配慮が必要な園児やサポートに入る必要がある活動の対応も、関係施設・療育施設とカンファレンス事業所会議を設け対応することができ、適切な指導ができた。反面クラス担任の業務負担は増加しているため、フリーの教員や担任以外の教職員でフォローできるように体制を整えたい。令和５年度も行事の実行後速やかに反省会を開催し次年度への課題を教職員で共有することができた。令和４年に大型遊具を設置して、子どもたちの運動的機能が高まった様子が見られる。数字的な比較は今後の課題だが、大きなけがの報告は減少している。 引き続き令和５年度の評価をふまえて、次年度以降の課題に繋げていくことが重要である。

〇結果（※）について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

５、今後取り組むべき課題

具体的な取り組み方法
令和５年度の評価の視点からは、見学の精神・仏教教育保育の理解が深まったことが検証されます。また教育環境の整備および保護者との連携が充実もしてていることが分かります。経年劣化の環境もあるため、新たな遊具、環境の導入も課題ではあります。教職員の危機管理意識と安全管理体制全体の更なる見直しと改善は継続的に考慮していく必要はあると思います。幼稚園や教職員にとって必要な研修内容を検討し、計画的に園内外の研修に取り組むことで更なる教職員の資質向上を図りたい。教職員全員参加での園内研修を行ない共通課題を見つけ改善に努める。保育の取組みについては、ＩＣＴ化により関係の希薄化について憂慮し配慮しながら、アナログ的なコミュニケーションも取り入れながら『保護者との連携』を大切にし、更なる工夫を行い信頼関係の向上に努める。各家庭の価値観の多様化により、参観、行事等に対する意見が年々多様化してきているので個別の配慮が特に大切になってきていると感じます。特別扱いするのではなく、多種多様な課題に寄り添い対応することが必要です。 年々夏場の高温時間が長くなっているが、できるだけ園外活動の機会を増やし、身近な恵まれた自然（川などの水場）地域の方々と触れ合う活動を更に充実させたい。更なる保育環境の充実に順次努めていく。物価高騰や、少子化、手当の改善など、幼稚園を運営する課題は山積である。学校法人や幼稚園だけで工夫することには限界があるが、地域の幼児教育の為に進むだけである。

令和５年度学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園　　学校関係者評価委員会
日　時　　2024 年 5 月 27 日（月）
15：30～16：00（時間）
出席者　評価委員(学校関係者)3 人
評価委員（保護者）2 人

１．自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

・概ね適切に実施されている。
・年度によって、目標・計画に手が加えられ、新たな課題を見出そうとしている

２．評価結果の内容は適切であったか

・風通しの良い教職員関係がみられる
・教職員がまとまって取り組んでいる様子がうかがえ適切であったと思われる

３．今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

前年度に引き続き、理事長先生の冒頭の話の中で、数年周期で課題設定しているとの話がありました。
少子化の中で、園児募集に苦慮されているが、子どもたちの為に引き続きが頑張ってもらいたい。
適切に設定されておると思われる。

４．今後取り組むべき課題は適切に行われているか

コロナが 5 類に移行したなかで、いかに子どもたち教育保育を確保し実施していくのかいろいろと工夫されている様子が見られた。
また、幼稚園という確立された幼児教育を引き続き、計画的に取り組んで適切に行われていると思われる。